

SawamotoDentalOfficeNews

2016年4月号



めっきり春らしくなってきましたが皆様いかがお過ごしでしょうか？
今月のSawamoto Dental Office Newsは大人のむし歯について特集していきます。

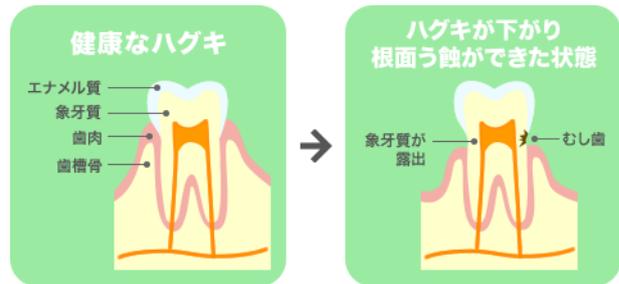


●「痛くなくても歯科検診」が歯を守る鉄則！

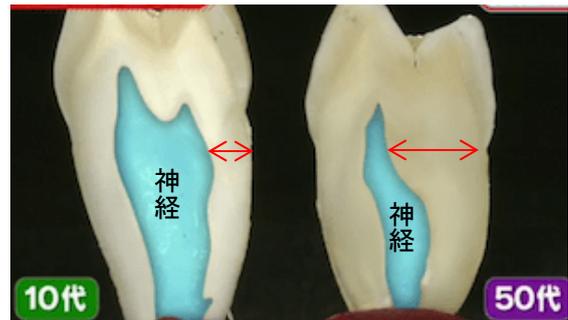
「大人になってからむし歯にならなくなった。」そんな油断から、大切な歯を次々と失う人が少なくありません。子どもも大人もむし歯の原因はお口の中にいるミュータンス菌などの細菌です。これらの細菌が糖分を食べて酸を出し、この酸が歯を溶かしてむし歯を作ります。ところが、大人のむし歯には、子どものむし歯とは違う3つの弱点があります。

●大人のむし歯はココが違う！

弱点1...歯ぐきが下がり根元がむし歯になりやすい
大人になると歯ぐきが下がり、エナメル質で保護されていない歯の根元の象牙質がむき出しに。また、エナメル質との境目はデコボコしてむし歯になりやすい。



弱点2...象牙質が厚くなり神経をかばう
大人になると、歯の内部にある神経を守ろうと新たな象牙質を作るため、痛みを感じづらくなります。痛みが出る頃には、かなり悪化していることに！50代の歯は、10代に比べて象牙質が厚く、神経のある空洞が小さくなっている。



弱点3...治療痕も危ない！
治療をすると、歯と詰め物との間にデコボコができ、むし歯になりやすい。またブリッジとの間はむし歯になってもわかりにくく、悪化しがちです。過去に治療した詰め物と、歯の間にむし歯になって茶色く変色します。



第1の弱点は、年をとると歯ぐきが下がり、歯の根元が露出して、そこがむし歯になりやすいということ。第2は、大人になると神経を守るために象牙質が厚くなり、痛みが出るのが遅れること。気づかないうちにむし歯が進んでしまいます。第3に要注意なのが治療痕。詰め物やブリッジなどの人工物と歯の間がむし歯の温床になります。

自覚しにくい大人のむし歯をチェックするためには、症状がなくても、少なくとも半年に1度は歯科を受診することが大切です。



来月のSawamoto Dental Office Newsは「歯を失うほど認知症になりやすい!?」について特集してまいります。

